

# すこやかガ7

第210号  
月号

SANDA CITY HOSPITAL PRESS SUKOYAKA



特集  
FEATURE

## がん検診について

外科 部長 和田 隆宏

芸能人のがんが報道されると、検診を受ける人や、心配で外来を受診する人が増えます。

よく「がん検診を受けましょう」と言われていますが、がんの検診は本当に有効なのでしょう。実は正しく理解してる人はほとんどいないと思います。



がん検診には、集団を対象にした対策型がん検診（集団検診）と、個人を対象にした任意型がん検診があります。ここでは、日本人全体のがん死亡率を下げる目的で公共サービスとして行われている対策型がん検診について述べます。

まず、第一に検診とは、症状のない人の中からがんを探すことで、症状のある人は対象外です。対象となるがんは、かかる人が多く・死亡の重大な原因であるがんで、安全で精度の高い検診法があること、検診で死亡者が確実に減ること、発見されたがんの治療法があること、総合的に見て検診を受けるメリットがデメリットを上回ること等の条件があります。

たとえば、乳がん検診に関していえば、現在有効とされているのは、40歳から75歳の女性のマンモグラフィ検診だけです。

良く勉強されている人は、マンモグラフィ以外の検査は見落としが多いが、マンモグラフィを受ければ、年齢に関係なくどんな小さいものでもすべての乳がんが見つかるといった認識をお持ちです。しかし、この検査は40歳未満には無効であり、検診で発見できないこともあります。

ちなみに当院で手術する乳がんの人の20%はマ

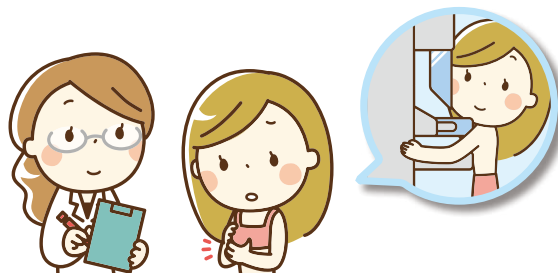
ンモグラフィでは異常無しです。特に若い人はマンモグラフィでは腫瘍が写りにくく放射線の被曝もあり推奨できません。家族性乳がんの人はマンモグラフィの放射線被曝で乳がんが増えるので、受けない方がよいとまで言われています。

では、どのような人がマンモグラフィ検診を受けてよいのでしょうか。まず、①40歳から75歳の人で②症状がない人（乳がんの症状はしこりと、まれにしこりなしで血の混じった分泌です。痛みは乳がんと無関係な場合が多いです）です。

症状のある人は検診を受けてはいけません。どんな検診も基本は症状のない人が受けるものです。検診ですべてのがんが100%見つかるわけではありませんので、症状のある人は医療機関を受診してください。

また、40歳未満の人や家族に乳がんが多い人も、集団検診ではなく、必ず、個別に医療機関を受診してください。

検診で、要精密検査と言われても、精密検査を受けない人がいます。乳がんと診断される人はマンモグラフィで要精密検査になった人（全体の10%以下）のさらに5%に満たず、皆さんが誤解されているように、検診の要精密検査＝がんではないので、精密検査は必ず受けましょう。



## 緩和ケア・がん化学療法看護

緩和ケア認定看護師 森 裕紀子

がん化学療法看護認定看護師 中尾 裕美

認定看護師とは、看護師として5年以上の実務経験を持ち、日本看護協会が定める615時間以上の教育を修め、審査に合格し取得できる資格です。

認定看護師の活動内容は、患者さん・ご家族により良い看護を提供できるよう、分野ごとの専門性を発揮しながら3つの役割である「実践・指導・相談」を果たして、看護の質の向上に努めています。認定看護師分野は21分野特定されており、その中で、当院は、がん看護領域の認定看護師が2名在籍しており、緩和ケア認定看護師とがん化学療法看護認定看護師が連携をとりながら患者さん・ご家族に直接介入しています。

現在、国民の2人に1人が、がんに罹患するといわれています。がん治療は、手術療法、放射線療法、化学療法、免疫療法の4大治療が大きな柱となっており、治療の形態は様々であり、生活への影響も多種多様にあらわれてきます。

がん患者さんは、がんと診断された早期から不安や身体症状を抱えながら生活されており、がん治療の継続や日常生活に大きな影響をもたらしていることも多い状況です。身体的・心理的・社会的な側面から多くの問題に直面し、治療の場も入院治療から外来治療へと移行しています。

入院治療中に、緩和ケアチームの医師・看



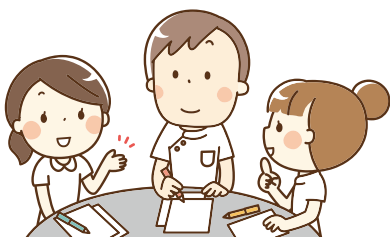
緩和ケアチームの病棟回診

護師・薬剤師・理学療法士と共に病棟ラウンドを週1回行い、患者さん・ご家族をサポートできるように検討しています。

また、がん治療において、メディアを通して多くの情報が流れており、容易に情報を取得できる時代といえます。情報に左右されることで、大切な時間を費やすため、情報に惑わされることなく、正しい情報を、自ら選択することが重要となります。

がん治療を継続していく上で、気持ちのつらさや生活のしやすさに関して、早期から関わるのが重要となるため、患者さんからも医療者へ発信して頂くことが大切です。自分らしさを大切に、どのように過ごしたいか、自分が大切にしていることは何か、どのような最期を迎えたいかを、ご自身で意思決定が出来るようサポートしていきたいと考えています。

病院内においてたくさんのスタッフが勤務しております。疑問に思ったことなど、ご相談頂けたら幸いです。



## 専門職紹介 薬剤科

- ・がん薬物療法認定薬剤師
- ・緩和薬物療法認定薬剤師

薬剤科 薬剤長 稲角 利彦

### ～がん医療に関わる認定薬剤師～

当院は兵庫県のがん診療連携拠点病院であり三田エリアのがん診療の中心的役割を担っています。患者さんに最善のがん治療を提供するためには医師、看護師、薬剤師、理学療法士等多職種から構成されるチーム医療が機能している必要があります。その中で当院においても認定薬剤師が活躍しています。

現在、当院薬剤科には、さまざまな認定薬剤師が在籍しておりますが、今回はその中でも特にがん医療に関わるがん薬物療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師の活動内容について紹介したいと思います。

### がん薬物療法認定薬剤師



常日頃、抗がん剤に関する最新の情報を収集して、主治医に対して患者さんに合った抗がん剤の選択支援を行い、投与に際しては治療当日の患者さんの体調や副作用の程度に応じて、治療継続の可否や投与量変更の提案を行っています。患者さんに対しては昨年10月より、がん薬物療法認定薬剤師が中心となり、内服抗がん剤を対象として、予約枠を設けて、抗がん剤に対する疑問点をうかがったり、副作用の対処方法の説明を行う窓口を開設いたしました。

今後、より多くの患者さんの相談にお答えできるよう努力してきたいと考えています。

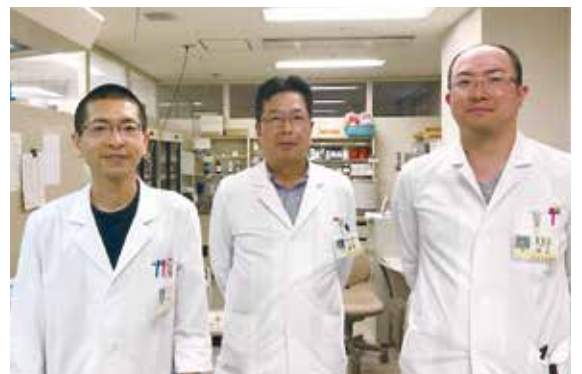


外来薬剤指導

### 緩和薬物療法認定薬剤師



「緩和ケア」というと、がんの治療ができなくなった時の最後の手段、というイメージを持たれるかもしれません。しかし、現在はがんと診断された時から、がんの治療と並行して行うことが一般的となっています。多職種から構成される緩和ケアチームにおいて、緩和薬物療法認定薬剤師の役割は、がんによる痛みをはじめとする苦痛症状を緩和する薬剤の調整、副作用や他の薬剤との飲み合わせのチェック、他の医療スタッフや患者さんへの薬剤の情報提供など多岐にわたります。チーム医療の一員として、患者さんが少しでも苦痛なく過ごせるよう、日々活動しています。



認定薬剤師



## Information

## 新人職員の抱負

4月から当院で働き始めた職員が抱負を語ります。



4階西病棟 **石井 麗**

4月より看護師として勤務しています。初めは社会人として、看護師として働くことができるのか緊張や不安を抱えていました。しかし、先輩方の温かく丁寧で熱心なご指導により、少しずつ不安を軽減していくことができました。

研修では、学生時代の学びの振り返りとともに、今後必要となる知識や技術を患者さんに、快適で適切なケアが提供できるように学びを深めることができました。

また、他職種間の交流をとおして、他の職種がどのように患者さんと関わっているのかを知り、チーム医療を行っていくうえで必要な知識を学びました。

今後は、患者さんにも医療従事者にも信頼されるような看護師になることができるよう、日々自ら学ぶ姿勢を忘れずに積極的に新しい情報を取り入れ、自分に今できることは何かを考えて行動し、看護に繋げて行きたいと思います。そして1日でも早く先輩方のような看護師になることができるように努力していきたいと思います。

薬剤科 **奥野 結衣**

4月より薬剤師として勤務しています。社会人としての第一歩を当院で踏み出せることを、心より嬉しく思います。

薬剤科での業務は多岐に渡り戸惑うこともありますが、先輩方が丁寧に教えてくださるので少しずつですが慣れてきているように思います。先輩方の姿を見ていると、深い知識や、患者さまの命や健康に深く関わる業務を担う責任感が必要とされる仕事なのだつくづく感じます。まだまだ、社会人としても薬剤師としても未熟ですが、日々の自己研鑽を怠らずに業務に従事していきます。



薬剤科 **奥山 優希**

4月より薬剤師として勤務しています。入職当初は緊張や不安もありましたが、丁寧に指導をしてくださる先輩方のおかげで毎日が充実しています。

現在は、調剤室・注射室にて業務を行っています。先輩方が他職種の方ともやり取りをしながら業務を進めていく様子を見て、コミュニケーションや信頼関係の大切さを実感しました。今後は、積極的に学んでいくことで知識

や技術を身につけ、常に目標を立てながら成長していきたいです。



## 医師からのメッセージ

日々の診療に励む医師から、「すこやか」読者の皆さんへのメッセージをお届けします。



高田 良平

たか た りょうへい

■診療科 消化器内科

### Message

赴任してから4年目になります。主に消化器疾患、内視鏡診断・治療を中心に診療しておりますが、高齢者の方も多く地域の皆様に必要とされる医療に貢献出来るよう心がけておりますので、お気軽にご相談ください。よろしくお願いいたします。



武中 良大

たけなか りょうだい

■診療科 泌尿器科

### Message

昨年から赴任し、毎日を身が引き締まる思いで診療に従事しております。泌尿器科というと受診しづらいイメージがあるかと思いますが、頻尿、排尿困難、尿漏れなどの症状で悩み、受診される患者さんはまれではありません。気軽に相談しやすい診察を心がけておりますので、足を運んでみてください。

## コメディカル

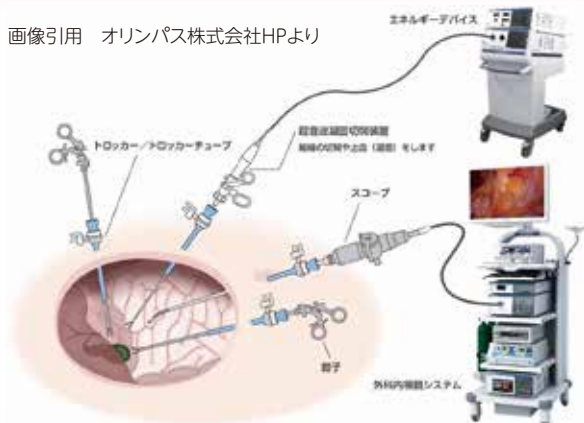
## 腹腔鏡手術機器について

臨床工学科 田中 敬士

今回は腹腔鏡手術で使用する機器を紹介します。

腹腔鏡手術はお腹に5mm～10mmの小さな傷口を開け、そこから細長いカメラや鉗子を挿入し、お腹の中の様子をモニターで観察しながら治療を行います。

画像引用 オリンパス株式会社HPより



▲手術で使用する鉗子  
鉗子の点検（通電チェック）▶



腹腔鏡手術では図や写真のような多くの機器を使用します。1つでも不具合があると手術が中断してしまうので、臨床工学技士がこれらの機器を定期的に点検し、手術中安全に使用できる環境を整えています。



# 近隣医療機関のご紹介

市民病院は地域医療連携を推進します。  
かかりつけ医を持ちましょう!

## 門 中 医 院

院長：門中 博義



当院は父親の代で40年余りと私が引き継いで20年、合計60年余りこの地で診療を続けていることとなります。

循環器疾患(心臓病や高血圧症)が得意分野ではありますが、長年の病院での臨床経験から代謝疾患(糖尿病など)・腎疾患など内科全般に気軽に御相談頂ければと存じます。

病診連携も三田市民病院を中心に密接に行っており、必要に応じて様々な専門病院にも御紹介させて頂いております。

私が医学生の間からの「病気を診ずして病人を診よ」の教えに忠実であることを心掛けながら、「来て良かった医院」を目指して日々診療に励んでいます。

病気や健康管理に関して少しでもお役に立てれば幸いです。

所在地：〒669-1331 三田市広野32-3

電話：079-567-0010

診察科目：内科・循環器内科・小児科

休診日：木曜・日曜・祝日、土曜日の午後

HP：「三田市 門中医院」で検索してください

診療時間	午前 9:00 ~ 12:30・午後 4:00 ~ 6:30					
	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	×	○	○
午後	○	○	○	×	○	×

## 高 平 診 療 所

院長：中井 義裕



自然豊かなこの地域で開業させていただいて、もう20年以上になりました。当院は脳血管疾患や心筋梗塞など、命にかかわる疾患にならないための予防医学としての生活習慣病の治療に力をいれております。

高齢者や子供の初期疾患など家庭医としての「かかりつけ医」を目指して診療させていただいており、検査や

治療など必要に応じて、三田市民病院などとも連携させていただいております。

また、来院が困難なために在宅医療を希望される患者様には、往診・訪問診療・訪問看護などを行っております。

まずは何でも心配なことやわからないことがあればお気軽にご相談ください。

所在地：〒669-1412 三田市木器2227-3

電話：079-560-8030

診察科目：内科

休診日：日曜・祝日、水曜・土曜日の午後

HP：「三田市 高平診療所」で検索してください

診療時間	午前 9:00 ~ 12:00・午後 4:00 ~ 7:00					
	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	○
午後	○	○	×	○	○	×

### 編集後記

7月に入り、一段と日ざしが強くなりましたが、皆さんは熱中症対策をしていますか?暑い中クーラーの様な冷房機器が苦手な人もいると思いますが、室内にいても熱中症の恐れがあるので部屋の温度を下げ、しっかりと水分を取り暑い夏を乗り切りましょう。

すこやか(第210号)  
令和元年7月発行

【編集・発行】  
三田市民病院  
学術広報推進委員会

 **三田市民病院**

〒669-1321 三田市けやき台3丁目1番地1  
TEL.079-565-8000 (代表)  
<http://www.hospital.sanda.hyogo.jp/>